

登録コード:MH417300 開講年度:2026		授業科目区分	専攻専門科目	必修
科目名	精神障害作業治療学 【20M以降】 Occupational therapy for mental health			
担当教員	小林 正義 田中 佐千恵			
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	作業療法学専攻/3年 前期 火曜・3 時限			
単位数、講義室	1 単位	保健学科 1 2 1 講義室	遠隔授業科目	
信大コンピテンシー	該当			
授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素		授業の達成目標	
	MH20カリ・保健			
	保健・医療の専門職者として必要な感性を磨き、基本的知識・技術を獲得して、さまざまな状況で活用できる。		精神保健領域における作業療法の役割を説明できる 作業療法の治療構造の特徴を説明できる	
	MH25カリ・保健・作業、MH23カリ・保健・作業			
	基礎的・専門的な知識と技能 保健・医療専門職者に必要な幅広い教養と基礎的・専門的な知識・技能を修得し、さまざまな状況で活用できる。		精神保健領域の作業療法の実践に関する基本的な知識と技術を修得し、精神疾患の障害特性に応じた作業療法実践の特徴とチーム連携の重要性、実施時の留意点・コツ・リスクマネジメントについて説明できる。	
	科学的探求力 変化し続ける社会で派生する多様な課題に対して、地域・国際的な視点から、科学的・倫理的・道徳的・創造的に課題に対応していく探究心と、課題克服や目標達成に向けて生涯をかけて取り組む力が身についている。		医療・保健・福祉領域の精神障害作業療法の基本的な実践方法を修得し、診療参加型臨床実習で活用できる。	
授業で学べる「テーマ」	健康長寿			
全学横断特別教育プログラム				
授業概要	本授業では、「精神障害評価学実習」、「精神障害作業治療学」と関連づけながら、精神系作業療法の基本的な実践方法を学習します。また、後期に開講される「精神障害作業治療学特論」とも関連があり、さまざまな精神疾患と、その障害の特徴について知識を整理し、作業療法の実践論と関連づけて理解を深めます。また、急性期から地域生活の支援まで、精神保健領域のリハビリテーションと作業療法の役割について理解を深めることを目的とします。 本授業は、担当教員の精神医療・保健・福祉領域の作業療法実践の経験を活かして講義を行います。			
授業計画	第1回（4月14日）統合失調症 第2回（4月21日）作業療法実践の基本的視点 第3回（4月28日）回復状態に応じた生活支援 第4回（5月12日）急性期作業療法（状態像,プログラム,評価指標） 第5回（5月19日）回復期作業療法（心理教育,連携,家族支援） 第6回（5月26日）気分障害 第7回（6月2日）不安障害・強迫性障害・解離性（転換性）障害 第8回（6月9日）摂食障害 ＜中間試験＞ 第9回（6月16日）パーソナリティ障害 第10回（6月23日）児童・思春期・てんかん 第11回（6月30日）アルコール・薬物依存 第12回（7月7日）器質性精神障害（認知症・重複障害） 第13回（7月14日）退院支援・外来作業療法・デイケア 第14回（7月21日）大人の発達障害（田中） 第15回（7月28日）訪問・資源利用・就学・家族支援・当事者活動（授業アンケートの実施） 第16回（8月4日）＜筆記試験＞			
授業の進め方	授業はテキストとスライド・配付資料を使って行います。能動学習を促進するためにeALPSに資料をアップします。また、授業の中で、予習・復習を通して学んだ内容に関する質疑応答を行います。			
テキスト、教材、参考書	【テキスト】 1)富岡詔子,他・編:作業療法学全書改訂第3版第5巻精神障害(協同医書出版) 2)香山明美,他・編:生活を支援する精神障害作業療法-急性期から地域実践まで(医歯薬出版) 【参考書】 1)伊藤順一郎・監修:統合失調症-正しい理解と治療法(講談社) 2)野村総一郎・監修:うつ病のことがよく分かる本(講談社) 3)澤俊二,他・編:作業療法ケースブック-コミュニケーションスキルの磨き方,作業療法評価のエッセンス(医歯薬出版)			
成績評価の方法	中間試験、期末試験に基づいて総合的に成績を評価します。 総括評価の配分は、中間試験50%、期末試験50%とし、総計の60%以上の得点を合格とします。中間試験は第8回（6月9日）、期末試験は第16回（8月4日）に筆記試験を実施します。 中間試験と期末試験では、精神保健領域における作業療法の役割、統合失調の回復過程、各種精神疾患・障害特性に応じた作業療法の実践論、生活障害と関連づけた作業療法の役割と実施時の留意点についての理解度を確認します。試験結果については実施後にフィードバックを行います。			

成績評価の方法	ドバックします。
成績評価の基準	中間試験および期末試験の判定基準は以下の通りとします。 90-100点：秀 80-89点：優 70-79点：良 60-69点：可 なお、これらの採点の基準は、達成目標に関連した設問に対する選択肢解答の正誤だけでなく、記述式解答における用語の適切さ、説明内容の範囲の広さや詳細さ、説明内容の論理的な妥当性などを指標とし、授業で説明した範囲における最低限の解答内容であれば「水準にある」、やや詳細な解答内容であれば「やや上にある」、十分に詳細な解答内容であれば「かなり上にある」、授業で説明した範囲以上に自身で能動的に学修した詳細な解答内容であれば「卓越している」と判定します。
事前事後学習の内容	本授業の単位修得には45時間の学習が必要であるため、以下のような学習時間を必要とします。授業時間30時間（2時間×15回）＋自己学習時間15時間（1時間×15回）＝45時間 【事前学習】 毎回の授業の終わりに次回までに行ってくる課題を指示します。講義資料の一部は能動学習を目的にeALPSにアップします。 【事後学習】 毎回の授業の終わりに課題について教科書や参考書で再確認し理解を深める箇所を指示します。指示された箇所は中間試験・期末試験の範囲となります。
学生へのメッセージ並びに質問，相談への対応	臨床での具体的な実践方法を伝えますので、疾患の特性と作業療法の役割について理解を深めてください。 質問への対応：小林正義 mkobaya@shinshu-u.ac.jp フィスアワー：火曜日 12：10-13：00 保健学科南校舎2階 小林研究室